

## 住まいの安全点検・ハザードマップ

名古屋大学 福和伸夫

皆さんはハザードマップを見たことがありますか？ 地震や風水害などの自然災害による危険度の大きさを地図の上に分かりやすく表示したものです。ハザードマップから、自分の住む土地の様々な危険度を知ることができます。敵の姿を知れば、適切な備えをすることができます。防災対策の第一歩は、土地の危険度を知ることです。そこで今回は、地震のハザードマップについて考えてみたいと思います。

地震ハザードマップには、私たちが感じる揺れの強さ「震度」や、揺れによって地盤が液体化する「液状化」の危険度、地震の後に襲ってくる「津波」の高さや到達時間、急傾斜地などの「土砂崩れ」の危険度などが示されています。

日本全体のハザードマップは、内閣府の防災情報のページ (<http://www.bousai.go.jp/>) や、地震調査研究推進本部のホームページ (<http://www.jishin.go.jp/>) で確認することができます。内閣府のホームページでは、中央防災会議が地震被害想定をした代表的な地震に対するハザードマップを見ることができます。また、地震調査研究推進本部では、海溝型地震や個々の活断層の地震の発生確率を示した長期評価結果や、揺れの強さ別に、揺れに遭遇する確率を示した地震動予測地図を見ることができます。これらの結果を見ると、南海トラフで発生する巨大地震の高い地震発生確率と、東海地域のハザードの高さを実感できます。

東海地域では、各県がハザードマップを作成・公表しています。内閣府が提供する防災シミュレータの各自治体防災情報ホームページ一覧 (<http://www.bousai.go.jp/simulator/list.html>) から確認できます。

市町村のハザードマップについては、各市町村のホームページをご覧ください。避難所情報など、災害発生時にも役に立つ情報が多数含まれている場合が多いですから、プリントアウトしていつでも取り出せるようにしておくといいと思います。場合によっては市町村役場に行けばマップをくれるかもしれません。

地震ハザードマップを見てみると、低平地の災害危険度が高いことが分かります。一般に低平地は、地盤が軟弱なため揺れが強く、液状化もしやすくなります。海岸や河川に近い場合には、津波危険度も高くなります。低平地は、洪水のハザードも高い場合が多いです。

住まい作りの基本は、安全な土地探しににあります。新たに土地や家を購入したり、下宿を探したりするときにはハザードマップを事前にチェックすることをお勧めします。